

株式会社 クリスタル・アーツ

2022-2023

(令和4年度)

コンサート企画
アーティストのご案内



Crystal Arts, Inc.

佐渡裕 指揮 シエナ・ウインド・オーケストラ

2022年11月/12月



全国各地で大人気！圧倒的な演奏技術に加え、親しみやすいポップスやトークなどを交えたコンサートで、吹奏楽部員の中高中生からクラシック愛好家の大人まで、幅広い層のファンをもつ“佐渡×シエナ”。他のクラシックとは一線を画す、楽しさと感動を一度に味わえる、日本最高峰にして唯一無二の企画を、あなたの街へお届けします。

《ブラスの祭典2022～音楽のおもちゃ箱》

前半：音楽のおもちゃ箱～佐渡裕のトークと音楽～

ファンおなじみの『おもちゃ箱』スペシャル・バージョン！曲目は当日までのお楽しみ、開けてびっくり！正に“おもちゃ箱”のようなコーナーで、“大人の文化祭”を目指して佐渡自身が厳選したポップスやジャズ、ロック、演歌などを、シエナが全力で演奏します。時にはお客様に客席からダンスや掛け声で参加して頂き、会場が一体となって大盛り上がり！

後半：ムソルグスキー作曲『展覧会の絵』

クラシックの人気曲『展覧会の絵』全曲を、佐渡シエナが初演奏！暗い古城、市場の賑わい、子ども達の歓声、使役されている牛、魔女の家など、たくさんの“絵”が登場するこの作品。様々な情景が次々に展開され、この曲もまるで“おもちゃ箱”のようです。中高吹奏楽部や一般楽団でも演奏されることの多い本作品。佐渡&シエナの高度な技術が光る演奏でお楽しみ頂けます。

フィルハーモニーオーボエカルテット ナレーター with 佐渡裕

2022年4月～5月



前代未聞！世界最高峰のアンサンブルと佐渡裕のコラボレーション

“初めての室内楽”としても楽しめる、常識を覆すナレーション付き演奏会。メインのモーツァルトの名作オペラ『魔笛』では、その語り部に世界的指揮者である佐渡裕が友情出演。世界最高峰の楽団メンバーで構成されるオーボエ四重奏団による立体的で甘美な音色と共に、古今のオーボエと弦楽のための逸品をお届けします。

モーツァルト：オーボエ四重奏曲
ジャン・フランセ：イングリッシュ・ホルン四重奏曲
モーツァルト/ロシナック編曲：『魔笛』（ナレーター：佐渡裕）

【出演】

オーボエ：クリストフ・ハルトマン / ヴァイオリン：ルイス・フィリペ・コエーリョ
ヴィオラ：ワルター・ケスナー / チェロ：クレメンス・ヴァイゲル / ナレーター：佐渡裕

※予定公演数決定済み

佐渡裕 指揮

2022年5月～6月

新日本フィルハーモニー交響楽団



反田恭平(ピアノ)を迎え、新日フィル創設50周年記念ツアーを敢行

佐渡裕の恩師である小澤征爾が創設し、2022年に50周年を迎える新日本フィルハーモニー交響楽団。佐渡は1989年プザンソン国際指揮者コンクール優勝後、プロの指揮者として国内デビューを果たしたのが新日本フィルの演奏会だった。本ツアーで演奏するベートーヴェン『交響曲第7番』は、佐渡のもう一人の師バンスタインに「デビューはこの曲で」と指定された思い出の曲。ソリストには、今最もチケットの取れない大人気ピアニストで、佐渡と国内外で共演を重ね、毎回大きな驚きと感動を生んでいる反田恭平を迎える。豪華共演の瞬間にご期待ください。

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」 / ベートーヴェン：交響曲 第7番

御喜美江 | アコーディオン

9月 / 年末年始 / 2月末～3月



ソロ・リサイタル ～バッハから現代音楽まで～

“クラシック・アコーディオン”のジャンルを切り拓き、世界の第一線を走り続けている御喜美江。荘厳なパイプオルガンのような響き、タンゴの情熱的なリズムと鋭いアクセント、草原にそよぐ風のようなメロディ…アコーディオンのイメージを覆す御喜美江の演奏は、人の心の奥深くまで沁み渡ります。

ソロ・リサイタルでは、クラシックの伝統と革新の架け橋となるような、時代や国境を越えた個性あふれる名曲を散りばめ、コントラストを堪能できる唯一無二のプログラムをお届けします。

J.S.バッハ：平均律クラヴィーア曲集より / グリーグ：叙情小曲集より
ピアソラ：パチンの少年、S.V.P.
シュトックハウゼン：TIERKREIS（黄道十二宮） 他



デュオ・リサイタル 《ファンタスティック・アコーディオン》 （共演：大田智美）

アコーディオンは“小さなオーケストラ”とも言われ、1台の楽器で奏でられる豊かなハーモニーも魅力の一つ。2台での演奏では、シンフォニックな雰囲気により強く醸し出されます。軽やかかつ繊細なリズム、熱い歌心、そしてパイプオルガンのような重厚感など、他の楽器では味わえない独特なキャラクターを発見し堪能できることでしょう。

J.S.バッハ：幻想曲とフーガ短調 BWV542
ドヴォルザーク：スラヴ舞曲 より
ピアソラ：オブリヴィオン（忘却） / エスカロア（鮫）
高橋悠治：雪・風・ラジオ 他

藤原真理 | チェロ

通年



チェロ・リサイタル ～円熟のブラームス～ （ピアノ：倉戸テル）

2019年に演奏活動40周年と古希を迎えた藤原真理。一度聴いたら忘れられない選び抜いた音色と深い内面性を追求し、さらなる深みを目指して進化し続けます。

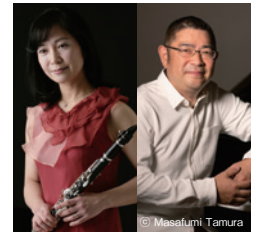
ブラームス特有のロマンティックなメロディが色濃く感じられるチェロ・ソナタ第一番をメインに、豊かに鳴り響くチェロの音色がピアノと呼応し合う対話をじっくりとお聴きいただけるフォーレ、ブルッフ、カサドなど至高の名曲を存分に堪能できるリサイタル。

ブラームス：セレナード第1番二長調第4楽章よりメヌエット
ブラームス：チェロ・ソナタ第1番ホ短調 / フォーレ：エレジー / ブルッフ：コル・ゴドライ
ブラームス／ディートリッヒ／シューマン：F.A.E.ソナタよりスケルツォ / カサド：親愛の言葉

名手によるクラリネット3重奏の世界 （クラリネット：遠藤文江 / ピアノ：倉戸テル）

オーケストラアンサンブル金沢で活躍する遠藤文江。15年以上藤原の最善の共演者である倉戸テル。2007年に録音したベートーヴェン「街の歌」に加え、「チェロとクラリネットが恋に陥ったかのように」と評されるブラームス三重奏をメインに据えて、生き生きと反応し合う室内楽の楽しみに満ちた新企画。

ブラームス：クラリネット三重奏曲イ短調
ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第4番変ロ長調「街の歌」 ほか



宮澤賢治「セロ弾きのゴーシュ」とチェロの調べ （ピアノ：倉戸テル / ソプラノ・語り：佐山真知子）

人の声のように優しく響くチェロの音色。その魅力を存分に味わえる珠玉の小品たちを心ゆくまで楽しんだ後には、癒しとユーモアにあふれる宮澤賢治のファンタジーの世界へ。室内楽版初演を務めた藤原真理、佐山真知子のコンビが抒情豊かに歌い上げます。

林光：チェロ、語り、ピアノのための「セロ弾きのゴーシュ」、チェロとピアノによる小品

酒井 茜 | ピアノ

通年

酒井茜 ピアノ・リサイタル
～ディアベッリ変奏曲を弾く～

長年アルゲリッチとのデュオで知られる酒井茜によるソロ・リサイタル。今年度メインに取り上げる曲は、ベートーヴェン晩年の大作『ディアベッリのワルツの主題による33の変奏曲 op.120』です。

その長大さと複雑な構成から、日本ではコンサートで取り上げられることが少ない隠れた名曲。クラシックの本場ヨーロッパの第一線で活躍する酒井茜の演奏で聴くことができる、またとない機会です。

(前半A) バッハ: バルティータ第1番 BWV 825 変ロ長調

バルトーク: 民謡の旋律による3つのロンド BB92 Sz8, ルーマニア民族舞曲Sz56

(前半B) ベートーヴェン: ソナタ「月光」、ドビュッシー: ベルガマスク組曲

(後半) ベートーヴェン: ディアベッリのワルツの主題による33の変奏曲 op.120

*前半は(A)もしくは(B)のどちらかをお選びいただけます。

ショパン&ショパンに憧れた作曲家たちのマズルカ

「マズルカはポーランド人の誇り、アイデンティティが芸術作品として昇華されたもの」と語る酒井茜。

ショパンで有名なマズルカですが、マズルカのみを集めたコンサートは滅多にありません。ショパンをはじめ、ポーランド出身の作曲家のマズルカを聴き比べることのできる興味深いコンサートです。

バッハ: バルティータ第1番 BWV 825 変ロ長調

ショパン: ソナタ第2番 変ロ長調「葬送」

シュビルマン: マズルカ / ヴァインベルグ: マズルカ第2番

マチエフスキ: マズルカ第9番、第10番 / シミノフスキ: マズルカ Op.50-1,2,10

ショパン: マズルカ Op.63 他

エフゲニ・ボジャノフ | ピアノ

2022年9月



2010年ショパン国際ピアノコンクールで、審査員のアルゲリッチが起立し喝采を贈るという“事件”で大注目を浴び、確固たる信念に基づく演奏を貫くことからグレン・グールドになぞらえられ、近年はその光彩陸離としたサウンドによってホロヴィッツに比肩すると評されるエフゲニ・ボジャノフ。指揮者・佐渡裕が絶大な信頼を寄せ、欧州や国内でたびたび共演。これまでに日本ツアーのソリストとして3回指名され、全国でその名を知られるようになりました。今回の来日公演では、「ホロヴィッツの1976年ソナタ 短調」をメインに据え、聴く人の心を大きく揺さぶる特別なピアノ体験をお贈りします。

リスト: ソナタ 短調

スカルラッティ: ソナタより 他

酒井 茜
&エフゲニ・ボジャノフ

2022年9月

酒井茜&エフゲニ・ボジャノフ
ピアノ・デュオ リサイタル

ピアノ界の巨匠アルゲリッチのデュオ・パートナーとして知られる酒井茜と、ソロだけでなく室内楽も精力的にこなし、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール(4位)では室内楽賞を受賞しているエフゲニ・ボジャノフ。2人は、2015年にラ・フォル・ジュルネ(東京)で初めてタッグを組み、個性的な演奏が光るボジャノフと、それを豊かに支える酒井茜の共演が話題となり、聴衆に強烈な印象を残しました。ソロでは見ることのできない、更なる音楽の神髄をこの2人を通してご堪能ください。

プロコフィエフ: バレエ音楽「シンデレラ」(プレトニョフ編曲) 他

ニュー ニュウ (ご相談ください)
牛牛 | ピアノ 2022年11月～2月



若々しいエネルギーと洗練されたピアノリズムを兼ね備え、着々と音楽家の道を歩むニューニュー。神童として名を馳せ、2018年にジュリアード音楽院を卒業。19年5年ぶりに行われたリサイタルツアーでは評論家から絶賛され、カーテンコールや大盛況のサイン会などその人気は健在です。18～19年に放送されたTVアニメ『ピアノの森』(NHK)で中国出身ピアニスト、パン・ウェイの演奏を担当し話題となりました。来年度のリサイタル・ツアーは、21年5月発売のCD<FATE&HOPE>(Decca)の中から、難曲で知られるベートーヴェン/リスト:交響曲第5番や「月光」「悲愴」など、名曲をご堪能いただける公演プログラムです。

ベートーヴェン:交響曲第5番(リスト編曲)
 ピアノソナタ「月光」、「悲愴」他

ザ・レヴ・サクソフォン・クワルテット

時期調整中



感性・技術・閃き - 全てを音に折り重ね フル回転で疾走するスーパー・クワルテット

数々の音楽コンクールで常にライバルだった4人が東京藝術大学で集結し2013年に結成。【レヴ(Rev)】はエンジンの回転などを意味しており、音楽がもつ無限のエネルギーをメンバー音として奏で一つの方向へ疾走したい、という思いを込めて命名。新鋭のメンバー各人が持つ強烈なキャラクターが光る、まだ見ぬサクソフォン四重奏の世界を突き進む唯一無二のクワルテットである。パッサに始まり、ドビュッシー、ラヴェルなどのフランス作品、現代音楽、映画音楽やポップスまで、幅広いレパートリーを持つ。ジャズでも活躍するメンバー宮越による、クワルテット個々人の高い技術力を最大限に引き出す斬新なアレンジ作品には今の【レヴ】が凝縮され重要なレパートリーとなっている。また、有料オンライン・サロン<REV_BASE>を展開し、会員限定のレッスンや映像を配信している。

《メンバー》
 上野耕平(ソプラノ) / 宮越悠貴(アルト) / 都築惇(テナー) / 田中奏一朗(バリトン)

ベンヤミン・アップル | バリトン

時期調整中



シューベルト、ブラームス、ブリテンなどの偉大な作曲家による作品で編み上げる「魂の故郷」

彗星のごとく現れ、今世界が絶賛する俊才バリトン歌手ベンヤミン・アップル自身が、生まれ育ったドイツから出発し新たな“故郷”と“自分自身”を探し求める旅の中で湧き上がる、様々な感情と思いを珠玉の数々で綴る自伝的リサイタル。何百年にも渡ってこのテーマを追求して来た先人と、今を生きる若者の物語を、熱い歌心で届ける21世紀のための歌曲集。

シューベルト:郷愁、さすらい人、夜曲 / ブラームス:夜の月、子守唄
 ブリテン:グリーンズリーヴス / ヴォーン=ウィリアムズ:静かな午後
 R.シュトラウス:万霊節 / ビショップ:埴生の宿
 ブラームス:乙女の唇はバラのように赤い
 *別プログラムによる公演も、ご要望により検討させていただきます

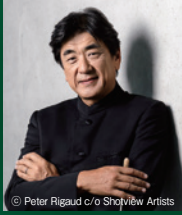
シューベルトによる不朽の名作

『美しき水車小屋の娘』作品誕生200周年記念

2023年、シューベルトがかの有名な歌曲集「美しき水車小屋の娘」を作曲して200周年を迎える。シューベルトの音楽とヴィルヘルム・ミュラーの詩の精巧な共生関係は、21世紀の今となっても色褪せることなく人間の衝動的行為をくまなく表現しており、当時と全く同じように今日においても共感できるものである。

この記念年を祝し、同作品の設定から着想を得て著名なアメリカ人作曲家デイヴィッド・ラングによる新作を加え、ドイツ歌曲界を牽引するバリトン歌手・ベンヤミン・アップル氏による主人公である若き粉職人の美しい水車小屋の娘への愛の物語をお届けします。

所属アーティスト



佐渡 裕 (指揮)

Yutaka Sado

故レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。1989年ブザンソン指揮者コンクール優勝。現在110年以上の歴史を持ちオーストリアを代表するトーンキンストラ管弦楽団音楽監督、兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウィンド・オーケストラ首席指揮者を務める。これまでにパリ管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ケルンWDR交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団等欧州の一流オーケストラに多数客演。



ケン・シエ (指揮)

Ken Hsieh

桐朋学園、洗足学園にて指揮課程を修了。秋山和慶、湯浅勇治らに師事。バンクーバー・メトロポリタン・オーケストラの音楽監督兼首席指揮者。近年中国での活躍が目覚ましく、若手指揮者として台頭している。これまでにトロント響、モントリオール響、フィンランド放送響、上海フィル等と共演。国内では2011年より日本センチュリー響と共演を重ね、新日フィル、日フィル、京響、九響、兵庫芸術文化センター管等に客演している。バンクーバー在住。



酒井 茜 (ピアノ)

Akane Sakai

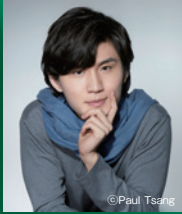
ババハからバルトーク、武満徹等レパートリーは幅広く、近年はシマノフスキ、シビルマンなどユダヤ系ポーランド作曲家の作品発掘にも力を注いでいる。室内楽にも造詣が深くアルゲリッチ、クレメル、故・ギトリスから厚い信頼を得て共演の数も多い。ラ・フォル・ジュルネを始めルガノ、別府アルゲリッチなど数々の主要音楽祭に出演。2018年よりハンブルク・アルゲリッチ・フェスティバル(独)のアーティストック・プランナーを務めている。



エフゲニ・ボジャノフ (ピアノ)

Evgeni Bozhanov

ブルガリア出身。2008年リヒテル国際ピアノ・コンクール優勝、2010年エリザベート王妃国際ピアノ・コンクール第2位、同年ショパン国際ピアノ・コンクール第4位。以降、ベルリン・ドイツ響、フィルハーモニア管、サンタ・チェチリア管等と共演。たったの音で聴衆を引き込む「魔術のよう」と称される魅惑的な演奏が特徴の唯一無二のピアニストとして、根強いファンを持つ。2020年よりドイツの名門フォルクヴァング芸術大学の教授に就任し、後進の指導育成にも力を入れている。



牛牛(ニウニウ) (ピアノ)

Niu Niu

1997年中国生まれ。わずか10歳でEMI(現ワーナー)からCDデビューし話題となった神童は、2017年に世界屈指のCDレーベルであるデッカと新たに専属契約を締結。第1弾CDは「レコード芸術」誌の特選盤に選ばれ、第2弾「FATE & HOPE」が2021年5月に全世界でリリースされた。チェコ・フィル、ワルシャワ国立フィル、上海響、兵庫芸術文化センター管、読売日響等と共演。今年度は全国7都市を回るリサイタルツアーや、京響、新日本フィルと共演を予定している。



村上 明美 (ピアノ)

Akemi Murakami

京都市立芸術大学、フライブルク音楽大学、ミュンヘン音楽演劇大学にて学ぶ。英国オールドバラ音楽祭、シュペルティアーデ音楽祭、ハイデルベルクの春音楽祭等に出演。ARD国際音楽コンクール声楽部門公式ピアニスト。2018年「サントリー1万人の第九」にゲスト出演。ミュンヘン宮殿にて開催される歌曲演奏会シリーズ「LIEDERLEBEN」の芸術監督を務める今日最も注目すべき歌曲・室内楽ピアニスト。



御喜 美江 (アコーディオン)

Mie Miki

16歳で渡独後、クラシック・アコーディオンの世界を切り拓いた「アコーディオンの女王」。CD「平均律クラヴィーア曲集」はドイツで最も権威ある「COPUS KLASSIK」を受賞。パロクから現代まで幅広いジャンルを自在に演奏し、ピアノ、ヴァイオリン、打楽器、ハーブなど、様々な楽器との共演指名も多い。ドイツの名門フォルクヴァング芸術大学の副学長として後進の育成にも定評があり、確かな演奏技術と高い芸術性に信頼と尊敬を集めている。



藤原 真理 (チェロ)

Mari Fujiwara

斎藤秀雄、フルニエ、ロストロポーヴィチに師事。71年第40回日本音楽コンクール・チェロ部門第1位および大賞受賞。78年第6回チャイコフスキー国際コンクール第2位受賞。以後名実ともに日本を代表するチェリストとして国内外で演奏活動を重ねる。J.カントロフ(ヴァイオリン)、V.メンデルスゾーン(ヴァイオリン)とくモーツァルト・トリオとして室内楽の分野でも活躍。2019年に演奏活動40周年を迎えた。



クリストフ・ハルトマン (オーボエ)

Christoph Hartmann

1992年よりベルリン・フィルハーモニー管弦楽団オーボエ奏者として活躍する傍ら、同楽団アカデミーを始め世界各地にて後進指導にあたるオーボエの伝道師。ソロ・室内楽の分野でも積極的に演奏活動を展開。アンサンブル・ベルリンおよびマルリン・フィル・オーボエ・カルテット創設メンバー。CDは数多く出版され、独奏を務めた協奏曲集アルバム「麗しのナポリ」は英グラモフォン誌など国内外で非常に高く評価された。



田村 麻子 (ソプラノ)

Asako Tamura

東京藝術大学大学院修了。米田マネス音楽院首席卒業。イタリア歌劇場でデビュー後、故バウワウツァー三大テナーと共演、日本を含む世界各地でオペラ出演やオーケストラとも共演をはたす。NYタイムズ紙に「輝くソプラノ」と評され、大リーグ試合中のアメリカ国歌斉唱の栄誉を得るなど活躍。現在、母校マネス音楽院にて教鞭をとる傍ら、マスタークラスなども精力的に行っている。



キュウ・ウォン・ハン (バリトン)

Kyu Won Han

韓国・ソウル出身。サンフランシスコ歌劇場、ボルドー歌劇場、バンコク・オペラ、オペラ・アイダホ、など世界各地のオペラに出演を重ねている。日本では新国立劇場や兵庫県立芸術文化センター制作オペラ「サントーレ」1万人の第九」等に出演。イタリア歌曲からドイツリートまで歌い分け、またミュージカル・ソングやジャズも多数レパートリーとしている。年を経るごとに芳醇さを増す豊かな歌声が特徴で、日本で多くのファンを魅了している。



ベンヤミン・アップル (バリトン)

Benjamin Appi

ドイツ歌曲史上に燦然と輝くディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウから寵愛を受けた最後の愛弟子。低音から高音まで魂にこもった印象的な柔らかな響きを持つ歌声は世界の主要コンサートホール・音楽祭で聴衆を魅了し、2014年から次々に新人賞にあたるさまざまな賞を獲得。2017年にはソニー・クラシカルと専属契約。2018年にはヤルグフ指揮NHK交響楽団との共演で日本デビューを果たす。彗星の如く現れた「いま絶対に聴くべき声楽家」である。



笠松 泰洋 (作曲)

Yasuhiro Kasamatsu

1960年福井市生まれ。東京大学文学部美学芸術学科卒業。作曲を故三善見、ピアノを故ゴールドベルグ山根美代子に師事。室内楽からオペラまで幅広く作曲。世界的にも有名な故郷川幸雄や江守徹演出作品、ダンスではH・アール・カオスや森山開次、映像では足利裕和や岡崎崇などの作品に多くの音楽を提供。平成30年度文化庁文化交流使として、南米、ロンドンで室内楽曲を、ウィーンではオペラ「人魚姫」の英語版を世界初演した。



熊谷 和徳 (タップダンサー)

Kazunori Kumagai

15歳でタップをはじめ19歳で渡米。06年には米ダンスマガジン誌より「世界で観るべきダンサー 25人」、16年にはNYにてBessie Awardを受賞。また19年版 ニューズウィーク誌が発表した「世界が尊敬する日本人100人」にも選出される。NYと日本を2大拠点とし世界各地に活動の場を広げ、ダンスの分野に限らず音楽シーンにおいて上原ひろみ、日野皓正、Omar Sosa等と革命的セッションを提示。独自の唯一無二のアートは日々進化し、新たなタップダンスの未来を創造している。

各企画、アーティストについて詳しい資料をご用意しております。お気軽にお問い合わせ下さい。



株式会社 クリスタル・アーツ

〒107-0061 東京都港区北青山2-12-15 Gフロント青山6F

TEL : 03-6434-7997 FAX : 03-6434-7998

http://www.crystalarts.jp mails@crystalarts.jp